

令和8年度 第3回
国府地域振興未来会議議事概要

日 時：令和8年8月25日（火）13時半～15時半

場 所：国府町総合支所大会議室

出席委員：山田一孝、前岡美華子、倉持裕彌、福田克彦、長尾隆基
福田大輔、池谷有希、矢芝好美、岸田玲子

事務局：須崎支所長、川口副支所長兼地域振興課長、植村市民福祉課長、
田渕産業建設課長、石原地域振興課長補佐

◎会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 令和8年7月12日（日）実施フィールドワークの報告・・・・資料1
- 4 雨滝PR動画の鑑賞
- 5 国府地域振興未来会議第5回ワークショップ・・・・・・資料2
- 6 閉会

【概要】

3 令和8年7月12日（日）実施フィールドワークの報告

- 大伴家持歌碑：万葉集を前面に出した歌碑。地元の人による管理・手入れが行き届いている。
- 兎ッ兎ワイナリー：周辺施設も含めて地域に根差した活動を展開されている状況を知ることができた。1次産業から6次産業化まで生かした取り組み。
- 長通寺：地元や観光客にも広くPRすべき施設。
- こうがけ野永の里：農地の活用、地元産品をPR。人が集まる交流の場。地元も今後もっと関わっていくのがよい。外との関り。
- 神護かやぶき交流館：以前は集落公民館として利用されていた、今は対外的な人の受け入れ。運営者は不在だったがロケーション的には良い。非日常と地元の日常のコラボレーションが今後重要。
- 楠城ふるさと広場：当日は閉鎖状態。地元の人と一緒に運営。水車小屋で米突きをして水車米として生産されていたが継続が難しい。
- 殿ダム交流館・記念広場：オープンスペースをどうやって地元の賑わいにつなげるか。
- 雨滝：観光客が多く賑わっていた。この賑わいをどう育てていくか。当日、雨滝とうふ工房で感想を言いながら食事したが、これをどういう形にまとめていくのが難しいという意見が出た。

[事務局] 見学した箇所は国府地域のほんの一部で、ほかにも魅力的なものはある。それらをどう発信してルートをつなげていくかが大きな悩みである。委員の皆様のお知恵を借りて何か一つでも形としたい。

[委員] 国府に住んでいながら知らないこともあると思い参加した。長通寺の襖絵は初めて見た。道中の会話の中で、兎ッ兎ワイナリー、こうがけ野永の里から楠城ふるさと広場のところも復活して、雨滝豆腐工房まで食が繋がったらいいのと思った。美敷や吉野のカフェもあり繋げていけばいいと思った。

4 雨滝PR動画の鑑賞

国府町観光協会が作成した災害復旧後の雨滝のドローン空撮動画を全員で視聴。

[事務局] 雨滝は国府を代表する観光地。災害からの復興ということで県の補助金を活用して作成したもの。

[委員] この動画は誰に向けたものか。長い動画は若い人は見ない。観光PR動画としてであれば、滝の壮観なシーンを見た時の反応はすごいので、滝の落水シーンを中心にしたらよかった。トイレやスロープの説明は不要かと。復興をアピールするのであれば壊れた橋などの新旧比較でよかったのではと思うし、また、いろんな人向けであれば、字幕だけでなく音声の説明もあってもよかったかも。

[委員] 雨滝からの観光客が結構お店に来られる。お店のHPに貼りたい。周辺施設の説明は不要と思うが、別の視点でいけば道が歩きにくいという情報は観光客にとって逆によかったりするかもしれない。付け加えて、観光客をターゲットにするなら雨滝がパワースポットという謂れ、地元の人が大切にしてきた部分をPRしたら。

[事務局] いろんな見方や視点があってありがたいと思う。今後向かっていくテーマの中で、そういう視点を取り込んで何か形にできるものができたらと思う。ワークショップの前に事務局から1点お知らせをしたい。

[事務局] 第1回ワークショップの際に、令和9年度の当初予算に向けて予算化するものがあれば夏くらいに計画をまとめるという説明をしたが、当初予算要求は概算要求となり、〆切が本日の未来会議の前だったため新規・拡充案件については間に合わなかった。令和9年度予算化は難しいのでそのことを踏まえてワークショップで議論をしていただきたい。

5 地域振興未来会議第5回ワークショップ

《グループ①》地域資源を活かした賑わいづくり

[委員] このグループの目指す賑わいづくりとは何か、フィールドワークの感想を聞かせてもらいたい。

[委員] 写真を撮ってみてインスタにあげてみようと思ったが、あげたいものがなかった。見て分かったこと、気づいたことはあったが、どれだけ地元の人

が携わっているか。実際にスポットをあててPRできることが少ない。どうやって繋げてアピールするか。材料が少ないというのが正直な感想。

[委員] 地元の人の関り具合、地元のサポートがどうかなあと感じた。

[委員] 知らないところが結構あった。改めてみると共感できる場所があった。でもこれをどうやって繋げるか、どこで賑わいを…というのは難しい。

[委員] 巡ってみて、誰をターゲットにするのか難しいと感じた。場所によって来てもらえる人は違う。

[委員] 巡ってみても結局半日もかかってない。維持管理もされていないところもあった。国府町の良い点はあるが離れて点在している。歩いては無理。AIに相談してみたら「イベントをして繋いでは…?」「体験型にすると人は来る」と回答があった。受ける人、主催する人、そこが問題。自虐的な視点も面白いのではないか。

[委員] 夏休み中の孫の世話をしながら体験型のチラシは関心を持って見ていて、実際に連れて行こうとも思う。体験して何かそこで作って帰るとか自分自身が食いつく。子どもを集めると大人が動く。そういうのを考えるといいのでは。

[委員] AIに聞けばアイデアをバンバン出してくる。サウナ熱波師とか。半日で遊べるイベント。でも、地元の人ばかりに負担がいくのは大変。

[委員] 何かをやれば参加する人はある。あとは交通手段があるか。

[委員] 事業計画で市が何かやるとか。負担が大きくないものがよい。何かに乗っかる。

[委員] サウナ、熱波師に来てもらう。

[委員] 殿ダム交流会館前にプールがあった。多くの人が活用していた。

[委員] 星空観察会とかもいいと思う

[委員] コミュニティセンターで開催していた星空観察会はまだあるか。あれが殿ダムでできれば人来る。他にAIの提案はどんなのがあったか。

[委員] いろいろあった。それでコースを組めばよい。

[委員] チャットGTPで調べてみた。訪れたい国府町の1位：宇倍神社、2位：雨滝、3位：国庁跡。

[委員] ストーリーが付くことが大事。

[委員] 宇倍神社の御朱印。スタンプラリー。デジタルスタンプラリーとか。

[委員] 先程見た雨滝の動画は以前の雨滝を知っている人向き。全く知らない人向きではない。動画も1つだけでは寂しい。

[委員] ターゲットをどう絞るか。

[委員] 数をいっぱい出すのも大事。長いものと短いもの両方のバージョン出すのが普通。

[委員] このグループ討議では予算付けをするのが目的か。

[委員] 観光客をどう繋げるか。

- [委員] 観光客相手だと、その方々はそもそも国府町を目指して来ていない。もっと手前で、奥部には行かない。鳥取市の中心市街地でさえ、いかに市内に宿泊してもらうかが難しい状態。宿泊したらそこからの広がりはある。鳥取市全体で考えたうえでの国府町の位置付けも大事。地元での面白いイベントとの連携、ウォークラリーとか兎ッ兎ワイナリーが定期的を開催しているイベント等との連携。
- [事務局] 定期的に開催されていることは重要なポイント。
- [委員] 継続してやればアテにできる。アテにできればリピーターの可能性に繋がる。
- [委員] 継続するには人員がいる。
- [委員] 何もないところにポンと来ては儲かるはずがない。最初が難しい。裾野が広がったらいい。
- [事務局] イベントは一過性のもので継続性のある賑わいに繋ぐのはハードルが高い。「国府見どころ観光マップ」を提示
- [委員] 歩きコース、1か所だけではたいがい。スタンプラリーが楽しい。探索するには良い。
- [委員] バスが来るところからスタート。歩ける距離で何か所か。食事ができることもポイント。
- [委員] ランニングをしながら飲んでコース巡りをするグループがあるらしい。
- [委員] 賑わいをどう捉えるかを考える必要がある。地元の人に参加型か、観光客を呼び込みたいのか、地元の賑わいが欲しいのか、夢のある構想を描くのか、スモールスタートで良いのか。
- [委員] こんなパンフレットがあるのを知らなかった。QRコードも載っている。デジタル資源を使うのが効果的。単体ではなく共同で何か仕掛ける。
- [事務局] 年代別や客層別にテーマを設定した新たなお勧めコースのようなものを提案できるか、パンフレットの中にどういう情報を落としていくと見た人に刺さるか等を検討してみてはどうか。
- [委員] デジタルの力を借りるのが良い。絵がほしい。解説が欲しい。
- [委員] それを目的にテーマをもって訪れた人には刺さる。

【今日のまとめ】

議論をまとめることに苦戦した。前回のフィールドワークを踏まえて皆さんの意見をもらった。それぞれのスポットはいいが、それがどう地元につながるか、マップを見ながら地元の人にも地域を巡ってもらいたい、拠点になるところからイベント周遊コースを提案したら地元の人でも楽しめるのでは、年齢・テーマ・バラエティーに富んだものを検討してはどうか、ということになった。リアルタイムに情報を取れないことがネックなのでそこを研究し提案できるように。町外から来てもらうことに繋がる。

《グループ②》持続可能な地域づくり

- [委員] 前回のワークショップでツールを導入し様子を見ていた。何も動きがないかと思っていたが最近少し動きがあったようだ。
- [委員] ゆるいつながりが大前提なので活用してもらえてありがたいし、言い出した自分は何も発信してないけど、このツールが相談できる場になったらいい。
- [委員] 初めは余計な力を加えずに様子を見ていたが、何となく使われたというのは大きい。改善点というかまだ使える余地はたくさんあると思っている。例えば先ほどのフィールドワークの報告はこのツールでできると思う。何を見た、面白かったポイントなどを挙げてもらったらリアクションしやすいし、面白い・行ってみたいと思ってもらえるのがこういうツールのいいところで、どんどん上げる感じになるともう少し使われる流れができると思う。事務局からも何かオフィシャルな情報を投げかけてもらえたら共有しやすいし、リアクションもしやすくなるのでは。
- [委員] 共有の方ではあまり使えなかったけど、個人同士の方は使った。個人的にLineは気づきにくいけど、ディスコードは割り切って結構使いやすい。
- [委員] 今はまだ使用場面が少ないので評価のしようがない状態だが、今後使用頻度を増やしていく流れが作れたら面白いと思う。
- [委員] ツールで共有された、事業をされたい方の件はどうなったか。
- [委員] 地域おこし協力隊から支所へ相談し、いくつか情報をもらったので返事をしたところ。マルシェをしているからか、いろんな人と繋がりがあり、とにかくここに相談したらという流れがあるように感じる。
- [委員] 地域おこし協力隊にもこのツールに入ってもらえたらどうか。
- [委員] なかなか新しいツールを入れるのは難しい。
- [委員] つながるという事のイメージじゃないが、9月にある県民カレッジ連携講座で“地域を耕す「日常の関係」”というイベントがあるので紹介する。何もしない合宿をやっておられ、その狙いはつながればいいということ。参加者が集まってとりあえずやるようにやって、いろいろ人がつながって「こうしよう」みたいな動きが出たらそれが一番強いのでそんな人との関係性を作ろうというところに狙いがある。そういう趣旨を学ぼうという講座で、今まさにこのグループはデジタルでそれをしようとしている。普段接しない人が会議の場という接点を利用してそれぞれの情報がこの場に出てくることでこの関係のネットワークが広がっていく。ゆるい関係がたくさんあると人はそこに住んでいて嬉しいとか住み心地がいいとを感じるらしいのでそこを目指したらいいんじゃないか。
- この会も始めてからどこに行くんだろーと感じながら来ているが、現状として緊急で話し合わないといけない事がないから、必要性が低い。必要性が低い中でどう必要性を見出していくのかという議論もつらいので、皆が

幸せになる方向だと共有できるし、暮らしやすさやこんなのがあったらいいなというのをやってみている感じ。

[委員] 年齢的にどういう人に刺さるのか。

[委員] ある程度働いて、少し余裕が出たくらいの時に、人との関係とかもう少し豊かにしたいなとか、漠然と日常の質を上げたいなというようなステージに立った時。

[委員] この度そばの種まきをした。何か社会とつながっておきたい、という人が結構来てくださったのかなと感じた。

[委員] そういう場面とか、機会は多ければ多いといいと思う。地域でのちょっとしたイベントにも評価軸があり、違った角度から見直せると面白い。イベントに参加した時に、出ている人とお客さんが知り合いだと何か嬉しいと感じる。全く知らない人の中に行くよりは、よく来たねって言ってもらえるところに行く方が行きやすいし楽しくないか。

[委員] これまで鳥取で例はあるのか。どんなふうになっているのか気になる。

[委員] 地域づくりって難しいなと悩んでいるところに光を指してくれそうな感じがするけどあまり期待をしすぎると肩透かしをくらう。これは時間もかかるし地味な動きだから。

[委員] いろんなつてを持っている人が行けばいろいろと広がっていきそうだが、想像がつかない。

[委員] 実は、同じ所に住んでいるというのは大きなつながりで、かなりの共通項である。

[委員] これから農業やりたいという人を引っ張ってこれたらいい。

[委員] 予算がない中でできることを考えないとという時、何ができるか。

[委員] この未来会議に来ることにつながれた人がいる。

[委員] 滝開きも写真で見ただけだったけど、つながれたことで知っている人が増えたと感じられるようになり、行ってみようかなという感覚が生まれる。ちょっと嬉しいしちょっと豊かになる。そういうのが広まって、地元を支えられるというか地元で支え合うというのにつながっていくのだろう。

[委員] 岩美から魚を売りに来る。庭先まで。

[委員] 鳥取は海産物がおいしい、そういう情報が欲しい

[委員] せっかく地元においしい農産物があるのに地元のものは目の前を通り過ぎて都会に行ってしまう。物質的な豊かさじゃないけど、こういう所に住んでいるんだからおいしいものを食べたい。移動販売は縄張りとか制約とかで展開場所に気を使うと聞いたことがある。

[委員] それこそ大茅には遊休施設がいっぱいある。年配の方が来るか来ないか分からないバスを待っているより、よっぽど来てもらった方がいい。

[委員] 例えば帰りのガソリン代を出したら来てくれるのでは。距離に応じたコストになるので、そこを住んでいる人がどれだけ穴埋めしてあげられるか。やりようはいくらでもあるのでは。

今話しているだけでもネタはいくらでもありそうなので、引き続きツールを走らせてみる。ディスコードに固定する必要はなく使い慣れた Line を入れてみて使い勝手を両方評価して、どちらにするか後で決めたり、何が効果的かは別角度で評価しても。

遊休農地、担い手のテーマについては、初めの仕分けの時に産業は別に議論する場があるので未来会議であえて取り上げなくてもそちらでやってもらえたらいい。ただこれがまちづくりと絡みそうだったら未来会議で話してもいい。

[委員] 20代の2人が新規で就農した。また、うちにも農業したい子が何人か来ている。ただし、農業はとても大変で食べていけるようにどうシステム化するかが課題。地元とのつながりがうまくいかなかった例もあり、ここで遊休農地、農業って言うてくださるような若い人とつながってくれたら、お金は大事だけどお金よりも大事な支援になるのではと思う。

[委員] お金が大事なのは食べていくため。とりあえず食べられればいいくらいの感覚で余裕が生まれたらお金もだんだん入ってくるのではないかな。

[委員] どういった農業を目指しているのか、食べれたらいいのか、一儲けしたくて農業をやるのか、農業をやるために家とまわりに土地があるという家を求めるのか、大規模に田んぼを買ってやるのかで違ってくるが、それを地元が快く受け入れてくれるのかが一番問題だと思う。

[委員] ここじゃないといけない理由をその人が作るのではなくて地域が作っていかないと同じことの繰り返しになってしまう。農業をしに来て、市から補助金をもらって、途中で辞めて帰っていってしまうから、次につながる支援になっていない。そのためにここでネットワークを作っておく。

[委員] その人のつてなら信頼ができるというキーマンを担ってもらう。結構重要な役割だと思うが、荷が重いんじゃないかな。

[委員] 一例として夕張に佐藤さんという女性がいて、自分の研究テーマとして夕張に入られた。いろんな人から「夕張をどうするつもりか、ネタにするのか」と問い詰められるが「一生夕張にいる」と言っていて、今はガイドをやりながらコミュニティゲートのような役割をされている。興味本位で夕張に来る人を分けないと、間違った夕張を広めてしまうことになり、それは本意ではないと。もともとから夕張にあるものを重要視していて、来ていい人とそうでない人をある程度選別するということがされている。どう扱うかは根深い問題としてあって、あちこちの移住定住で問題となっている。誰でも彼でも入ってきた人を無理やりつないでいかせるよりは、ゲートを通して、選別して、そこから今我々が作ろうとしているネットワークにアクセスするという段階があるかなと思った。

[委員] 地域のコミュニティは1回しくじるとシャットアウトになる。悪い印象が付いたらもう難しい。地元の人もう話は通せないよねってなっている例

もある。個人的にもお店は信頼できる人をお願いしたい。つながれたら広がる。パン屋さん復活してくれたら、食のロードができるのはいい。

[委員] 観光客だけでなく地元で根差した人に入って来てもらいたい。

[委員] やはり建物が残っているのは大切なこと。

[委員] 問題なのは使える建物が残っていない。大茅は後回しにされる。ガードレールが壊れていて10年以上放置されている。あと10年もしたら見捨てられた地になる。財政的なことは理解するが、住んでいる人としては納得できない。人を集めたら優先順位は上がるのだったら住んでももらいたい。農地も余っているんだから農業やってくれたらいいなと思うし定住させたい。

[事務局] モデル事業を本年度から実施していて、協議会も立ち上がったところ。担い手確保やスマート農業にも取り組んでいる。未来会議でも進捗を報告したい。

[委員] 先ほどのつながりの話や外から来られる農業者の話が途中になっているのだが、どうつなげていこうか。

[委員] 面接して一緒に働いてみたらちょっと違うなということはある。課題や問題も後で知ることになる。かといって、よそ者だからと始めからそういう対応はどうかとも思う。受け入れ側も流儀を変えられない人がいるので、間に入って通訳してくれるような人が必要。

[委員] 濃い関係性は大変。逃げ場がなくて潰れちゃったらいけないので、あえて遠い所に住んで通うのがいい。仕事から帰ったら自分を取り戻せるという関わり方もある。物理的に切り分けるのも面白い。無限のバリエーションがあって、いろんなことが起こると思うが、新しく入った人がどう根付くかは未来会議で議論するのにいいテーマ。

[委員] 逃げ道は大事。

[委員] 農業は兼業がいいと思う。農業で暮らしていくにはとても大変で、他で収入を得て農業をやるのでも農地を守っていける。

【今日のまとめ】

前回導入したツールについて、新しい使い方やつながり方も出て、ここから先もう少し充実したやり取りが期待できるのではないかという状況。目標はゆるいつながりを増やすことなので、ゆくゆくは未来会議委員全員でつながってもいいかと思う。今後も引き続き使用感も含め評価をしていく。

もう一つ、どうしても遊休農地とかという話が出るが、これは産業分野である程度処理できる話はそちらでしていただき、この未来会議ではまちづくりに絡む話とかもう少し細かい話を情報共有したい。

5 閉会

次回の開催日時

令和8年10月26日（月）10：00～

国府町総合支所大会議室